

# 移動市長室



さかえまちじちかい  
栄町自治会

## 野良猫から地域猫へ 猫と共生するまちづくり

通算111回目となる移動市長室を、12月21日(火)に三地区公民館で開催し、栄町自治会の役員など7人と懇談を行いました。

### 地域の悩みを解決するために

栄町は人口4511人(令和3年11月末時点)、JR二日市駅前をはじめ、飲食店などが多く建ち並ぶ地域です。以前は狭い路地に野良猫が多数生息していたことから、猫の糞尿被害に関する苦情が自治会に頻繁に寄せられていました。

対策に悩んだ役員の方々は、令和元年に市に相談。そこで「地域猫活動」を知り、取り組みの検討を始めました。自治会の会議で活動について話し合い、賛否さまざまな意見が交わされました。最終的には、「住民が悩んでいることには、地域として対応しなければ」という区長の思いもあって、令和2年から栄町自治会による地域猫活動が始まりました。



### 地域猫活動とは

野良猫の数を減らすことを目的に、地域で猫を管理する活動。繁殖しないよう不妊去勢手術を施し、ルールに基づいたエサやり・トイレ掃除などを行う。



### 毎日休まず取り組み

栄町では、まず猫の生息状況を調査し、把握した猫たちの不妊去勢手術を県の補助金などを活用して実施しました。現在、管理している猫の9割の手術が完了しています。

「エサもトイレも、猫は決められた場所にきちんと来ます」と話す役員。1日2回のエサやりでは最後の1匹が食べ終わるまで待ち、必ず掃除をして帰るため、活動時間は長いときで1時間以上かかることもあるそうです。そうした日々の活動はボランティアにより、365日休まず行われています。

## 地域の理解と協力を得て

地域猫活動には、地域住民の理解が必要不可欠です。栄町自治会では、地域回覧での活動報告に加え、ポスターやボランティア用の名札を作成し、自治会活動として周知に努めました。また、栄町商工組合にも協力を要請し、むやみな工サヤりの禁止などを呼びかけました。

活動を続けるうちに、温かい声かけや協力的な事業所なども増えてきたという皆さん。最近では、一般の住民からも寄付の申し出があったそう。役員は、「大きな成果だと思えます。猫を好きでない人も含め、地域の皆さんに活動を見守っていただけたからこそ」と話しました。

## 住みよい栄町をめざして

栄町自治会が活動を始めて2年。今年は糞尿被害の苦情が減り、子猫も見かけなくなつたと効果を実感しているといいます。地域猫活動の理解者が増えたことで、自治会活動に関心を持ってもらうきっかけにもなっているそうです。

栄町区長の田代 龍海さんは「地域、ボランティアの協力なくして活動はできません。ボランティアの負担軽減などを検討しながら、より住みやすい栄町となるよう活動を継続していきたい」と話しました。

## 参加者からの感想

- ・市長と直接お話しできる移動市長室は素晴らしいと思いました。地域皆で同じ方向を向いて活動をしていることをお伝えできてよかったです。
- ・市長が私たちの話を真剣に聞いていただいていることが分かったので、活動をやっていてよかったな、と思いました。市長や市政のことを身近に感じることができました。



## 藤田市長の一言



栄町自治会の皆さんが、地域が抱えた問題を丁寧にひとつずつ、少しずつ解決していこうと、これだけまとまってボランティアでしっかり活動されていることに大変感銘を受けました。

野良猫の問題で困っている地域は多くあります。本日のお話を参考にさせていただきながら、行政の中でも今後の対策に努めてまいりたいと思います。

皆様方のご努力に感謝を申し上げるとともに、栄町のこの活動が、環境美化を含め住民の皆様にとってさらに住みやすい地域づくりにつながることを祈念しております。本日は誠にありがとうございました。